イゼベル
聖書箇所
（パート1）Ⅰ列王 21 章
（パート2）Ⅱ列王 9 章
参考聖書箇所（イゼベルに言及のある個所をリストアップしますが、そこだけを読むのでは話の流れが理解できないので、前後もお読みください。ディスカッションの時に参考になると思います）
Ⅰ列王16：31、18：4、18：13、18：19、19：1－2

イゼベル：　パート1
イゼベル登場の背景
ダビデの息子のソロモンの時にイスラエルの国は全盛期を迎えたが、既にソロモンの治世の終わりにはソロモン自身が外国人の妻を多くめとり、妻たちが自分たちの偶像をイスラエルに持ち込み、ソロモンやイスラエル全体が神から離れるような生活を始めてしまう。このために神は少しずつ外敵がイスラエルを攻撃するようにされ、国力が弱まっていく。外敵だけでなくイスラエルの内側でも、ソロモンの部下でエフライム人のヤロブアムが存命中に謀反を起こすが、エジプトに逃れた。ソロモンの死後、息子のレハブアムが王になるが、増税をし、北イスラエルの 10 部族を失い、北王国はエジプトから舞い戻ってきたヤロブアムを王にした。

結果としてイスラエルの国は、ヤロブアム率いる北イスラエル王国とレハブアム率いる南ユダ王国に分裂してしまう。この二者間に対立があり、ヤロブアムは民が南王国のエルサレムの宮に礼拝に行き心が自分から離れるのを恐れて、ベテルとダンに金の子牛を用意し、レビ人でない祭司を任命し、偶像礼拝をさせるようになる。

一方、レハブアムの母はナアマと言いアモン人（Ⅰ列王１４：２１）。ソロモンが娶った外国人との子供、つまり生粋のヘブル人ではない、混血児が王になっているところからも、イスラエルがトップの人間からして神から離れ始めていたことが分かる。しかし、ダビデのゆえに南のユダ王国からは主に従う王も時々出た。

これに対し、北のイスラエル王国は、神の忌み嫌われる偶像礼拝の道をまっしぐら。ヤロブアムの子ナダブは親と同じ偶像礼拝の罪の道を歩む。そして、イッサカル家のバシャのクーデターに会い、シロ人預言者アヒヤのことばどおりに、ヤロブアムの全家はバシャに滅ぼされてしまう。

そのバシャも偶像礼拝の罪を犯し、その子エラは、戦車部隊の半分の長ジムリのクーデターに会い、全家が滅ぼされる。預言者エフーとことば通りになる。しかし、七日天

下。将軍オムリが王に選ばれ、ジムリを滅ぼす。

だが、当時イスラエルはギナテの子ティブニ派とオムリ派に分かれており、オムリ派の方が強く、ティブニが死ぬとオムリが王に。オムリもやっぱり偶像礼拝をし、その子がアハブで、その妻がイゼベル。

イゼベルの出自

Ⅰ列王
16:31 彼にとっては、ネバテの子ヤロブアムの罪のうちを歩むことは軽いことであった。それどころか彼は、シドン人の王エテバアルの娘イゼベルを妻にめとり、行ってバアルに仕え、それを拝んだ。
いよいよイゼベルの登場。は、金の子牛を作ってイスラエルの民を偶像礼拝に導いたヤロブアムは神に対し大きな罪を十分犯したのだが、イゼベルの夫アハブの犯した罪は、あのヤロブアムの比ではなく重い罪を犯したことがわかる。そして、「それどころか」とあるから、そんなことでは済まなかったということ。アハブのした、とんでもが何かと言うと、イゼベルを妻にめとり、わざわざ行って、バアルに使えて、バアルを拝んだことだというわけだ。
さて、イゼベルは、「シドン人の王エテバアルの娘」。シドンは今のレバノン。エテバアルだが、ある解説によると、元フェニキアのビーナスの祭司だったがフェニキアの王を殺して、国を乗っ取り、王になったという記述がある。そもそも、シドンは異国。そんなところの王様で、異教の神の祭司までしたことのある人物の娘。後の聖書の記述からも、シドン人が神としていたバアルをイスラエルに持ち込み、イスラエルの神の預言者を殺し、バアル宗教を積極的に布教していった女性だ。アハブは完全に妻に絡めとられている。

カルメル山でのエリヤとバアルの預言者対決の背景

Ⅰ列王 17 章の初めに預言者エリヤが登場。神からアハブへのことばを受け、アハブに2、3 年雨が降らないことを告げ、神に言われて身を隠す。Ⅰ列王 18 章で、再び主からエリヤにことばがあり、アハブに会いに行くことに。その時に、イゼベルへの言及がある。このころには干ばつでイスラエル全土は、酷い飢饉になっていた。
Ⅰ列王
18:3 アハブは王宮をつかさどるオバデヤを呼び寄せた。――オバデヤは非常に【主】を恐れていた。
18:4 イゼベルが【主】の預言者たちを殺したとき、オバデヤは百人の預言者を救い出し、五十人ずつほら穴の中にかくまい、パンと水で彼らを養った――
アハブには、側近にオバデヤという信仰心の熱い人がいた。「オバデヤは非常に【主】を恐れていた。」（18：3）とあるが、どのくらい主を恐れていたかと言うと、アハブの妻

のイゼベルが主の預言者を殺した時に、「百人の預言者を救い出し、五十人ずつほら穴の中にかくまい、パンと水で彼らを養った」（18：4また18：13も同様の内容）程であった。このオバデヤは、飢饉の際に、国の資源調査をアハブ王と分担して行なう程王に信頼されていた人物であったようだ。一方、国が飢饉でにっちもさっちもいかない時に、王の妻のイゼベルは主の預言者皆殺し政策を行なっていた。イゼベルが宗教面で大きな力を持っていたことが分かる。

ともかく、国勢調査に出かけたオバデヤにエリヤが近づき、アハブ王を呼んでくるように頼む。そして、アハブとエリヤが対面し、カルメル山での対決を提案する。
Ⅰ列王
18:19 さあ、今、人をやって、カルメル山の私のところに、全イスラエルと、イゼベルの食卓につく四百五十人のバアルの預言者と、四百人のアシェラの預言者とを集めなさい。
イゼベルは、バアルの預言者四百五十人とアシェラの預言者四百人を抱えていた。「イゼベルの食卓につく」とあるので、偶像の預言者と親しい関係を持ち、パトロンであったことが分かる。

カルメル山に来たのは、バアルの預言者だけだったのだろうか。アシェラの預言者と対決した記述は出てこない。それとも、バアルが男性神で、アシェラは女性神だったので、代表格のバアルの方だけの言及になったのか？ともかく、バアルの預言者は一網打尽にされた。（18：40，19：1）その後、激しい大雨になる。

エリヤ逃亡の背景とエリシャへのバトンタッチ

Ⅰ列王 19 章の初めのところで、アハブは妻イゼベルにエリヤのしたことを報告する。この報告を受けたイゼベルのしたことがⅠ列王19：2に書かれている。
Ⅰ列王
19:2 すると、イゼベルは使者をエリヤのところに遣わして言った。「もしも私が、あすの今ごろまでに、あなたのいのちをあの人たちのひとりのいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」
イゼベルは自分の神々に誓ってエリヤを殺そうとする。このため、エリヤは敵前逃亡。

逃亡先で主が再びエリヤに語られた。①ハザエルに油を注いで、アラムの王とする、②ニムシの子エフーに油を注いで、イスラエルの王とする、③エリシャに油を注いで、エリヤに代わる預言者とする。
①については、エリシャがアラム王ベン・ハダデの部下ハザエルがアラムの王になることを告げ（Ⅱ列王8：7－15）、このハザエルはアハブの息子ヨラムに傷を負わせ、イズレエルに帰るようにした人物、②についてはエリシャがエフーに油を注ぎ、ハザエ

ルのせいで傷を受け手イズレエルに戻っていたアハブの息子ヨラム王をエフーが殺害し、イゼベルも殺すことになる（Ⅱ列王 9 章）。エリヤのしたのは③だが、エリシャを自分の後継者とすることで、エリシャを通して神がエリヤに命じられたことが実行され、預言が成就していく。

Ⅰ列王記 21 章の背景

エリシャがエリヤに仕えるようになってからの話、Ⅰ列王 20 章において、アラムの王ベン・ハダデが全軍を集めて北イスラエルを総攻撃するために首都サマリヤを包囲する。このときある預言者が遣わされ、アハブ王にチャンスが与えられる。

Ⅰ列王

20:13 ちょうどそのころ、ひとりの預言者がイスラエルの王アハブに近づいて言った。「【主】はこう仰せられる。『あなたはこのおびただしい大軍をみな見たか。見よ。わたしは、きょう、これをあなたの手に引き渡す。あなたは、わたしこそ【主】であることを知ろう。』」

攻撃をしてくるアラム軍とそれを迎え撃たなければいけないイスラエル軍には圧倒的な兵力・戦力の差があった。しかし、イスラエルの神をあなどり、イスラエルの民をなぶりものにしようとしているアラムの王を主は懲らしめられる。しかし、アラム王の家来たちは、自分たちの敗北がイスラエルの神に有利な陣ぞなえであったための敗北と考え（「彼らの神々は山の神です」（20：23）、その次の年に、平地での戦いを挑む。

この時も、二者間には圧倒的な兵力・戦力の差があった。（参考）20:27 彼らは二つの群れのやぎのようであったが、アラムはその地に満ちていた。20：17）再び神の人預言者がアハブ王の所に来て言った。

20：28後半

「【主】はこう仰せられる。『アラムが、主は山の神であって、低地の神でない、と言っているので、わたしはこのおびただしい大軍を全部あなたの手に渡す。それによって、あなたがたは、わたしこそ【主】であることを知るであろう。』」

再び、アハブ王に主を知るチャンスが与えられ、アラムを完全に撃退することができるのに、アハブ王はアラムを聖絶することをしなかった。このために、主は預言者を通して、アハブ自身もイスラエルの民もアラムにやっつけられてしまうことが告げられる。

20:42 彼は王に言った。「【主】はこう仰せられる。『わたしが聖絶しようとした者をあなたが逃がしたから、あなたのいのちは彼のいのちの代わりとなり、あなたの民は彼の民の代わりとなる。』」

このような経緯があって、Ⅰ列王 21 章のナボテのぶどう畑事件が起きる。

ナボテのぶどう畑事件

Ⅰ列王21章

21:1 このことがあって後のこと。イズレエル人ナボテはイズレエルにぶどう畑を持っていた。それはサマリヤの王アハブの宮殿のそばにあった。
「このこと」とは、アラム軍との戦いにまつわる上に説明した出来事のこと。イズレエルは、ガリラヤ湖とサマリヤの間ぐらいにある。今でもイズレエル平野は穀倉地帯、農業地帯なので、当時ぶどう畑があっても不思議ではない。いずれにしてもアハブ王は宮殿を持っていて、そのそばにナボテのぶどう畑があった。

21:2 アハブはナボテに次のように言って頼んだ。「あなたのぶどう畑を私に譲ってもらいたい。あれは私の家のすぐ隣にあるので、私の野菜畑にしたいのだが。その代わりに、あれよりもっと良いぶどう畑をあげよう。もしあなたがそれでよいと思うなら、それ相当の代価を銀で支払おう。」
現代の私たちがこのアハブ王のお願いを聞いたら、そんなに悪い申し出じゃないと思ってしまうかもしれない。ナボテに不便を強いる代償として、別のぶどう畑、しかももっと良いものを用意して、しかもきちんと畑の代金も払おうと言っているのだから。しかし、・・・

ナボテの答えは・・・
21:3 ナボテはアハブに言った。「【主】によって、私には、ありえないことです。私の先祖のゆずりの地をあなたに与えるとは。」
ナボテはアハブ王の美味しい話に飛びつくような人物ではなかった。神はイスラエルに約束の地をお与えになり、それを失うことがないように律法の中で細かい規則をおつくりになった（例えば、レビ記 25 章にあるヨベルの年に関する律法）。それをナボテは良く知っており、守っていた人であったことが分かる。たとえ、王のお願いでも、神の命令を破ることは出来ないと考えた。

21:4 アハブは不きげんになり、激しく怒りながら、自分の家に入った。イズレエル人ナボテが彼に、「私の先祖のゆずりの地をあなたに譲れません」と言ったからである。彼は寝台に横になり、顔をそむけて食事もしようとはしなかった。
これに対するアハブの反応は・・・まるきり子供じみている。「不きげんになり、激しく怒りながら、自分の家に入った」「寝台に横になり、顔をそむけて食事もしようとはしなかった」

21:5 彼の妻イゼベルは彼のもとに入って来て言った。「あなたはどうしてそんなに不きげんで、食事もなさらないのですか。」
いつもと違うアハブの態度に気づいたイゼベル。

21:6 そこで、アハブは彼女に言った。「私がイズレエル人ナボテに『金を払うからあ

なたのぶどう畑を譲ってほしい。それとも、あなたが望むなら、その代わりのぶどう畑をやってもよい』と言ったのに、彼は『私のぶどう畑はあなたに譲れません』と答えたからだ。」
有体にアハブはイゼベルに話す。

21:7 妻イゼベルは彼に言った。「今、あなたはイスラエルの王権をとっているのでしょう。さあ、起きて食事をし、元気を出してください。この私がイズレエル人ナボテのぶどう畑をあなたのために手に入れてあげましょう。」
アハブの話を聞いて、夫のアハブを叱咤激励するイゼベル。
しかし、アハブはマザコン？イゼベルもイゼベルだ。「この私がイズレエル人ナボテのぶどう畑をあなたのために手に入れてあげましょう。」って、こんな単純なことにしょげて食事もできない夫に、奥さんがしゃしゃり出るとは・・・

21:8 彼女はアハブの名で手紙を書き、彼の印で封印し、ナボテの町に住む長老たちとおもだった人々にその手紙を送った。
しかも、たかだか家庭菜園のために、王の権力を妻のイゼベルが政治的に個人の利益のために利用している。

イゼベルが書いた手紙の内容は・・・
21:9 手紙にはこう書いていた。「断食を布告し、ナボテを民の前に引き出してすわらせ、
21:10 彼の前にふたりのよこしまな者をすわらせ、彼らに『おまえは神と王をのろった』と言って証言させなさい。そして、彼を外に引き出し、石打ちにして殺しなさい。」
まるきり起こりもしなかったことを証言するように土地の有力者に命じている。

イゼベルの手紙を受け取った人々の反応
21:11 そこで、その町の人々、つまり、その町に住んでいる長老たちとおもだった人々は、イゼベルが彼らに言いつけたとおり、彼女が手紙に書き送ったとおりを行った。
21:12 彼らは断食を布告し、ナボテを民の前に引き出してすわらせた。
21:13 そこに、ふたりのよこしまな者が入って来て、彼の前にすわった。よこしまな者たちは民の前で、ナボテが神と王をのろった、と言って証言した。そこで人々は彼を町の外に引き出し、石打ちにして殺した。
21:14 こうして、彼らはイゼベルに、「ナボテは石打ちにされて殺された」と言ってよこした。
街の長老たちも長老たちだ。うその証言をならず者にさせて、罪なきナボテを石打ちにして殺してしまうとは。イゼベルはそれほど影響力を持つ人になっていたということ

が分かる。
ナボテが死んだ後・・・
21:15 イゼベルはナボテが石打ちにされて殺されたことを聞くとすぐ、アハブに言った。「起きて、イズレエル人ナボテが、あなたに売ることを拒んだあのぶどう畑を取り上げなさい。もうナボテは生きていません。死んだのです。」
21:16 アハブはナボテが死んだと聞いてすぐ、立って、イズレエル人ナボテのぶどう畑を取り上げようと下って行った。
アハブ王も、すっかりイゼベルのペース。これ幸いと、ナボテのぶどう畑を取り上げてしまう。正義も何もあったものではない。上の人間がこうでは、臣民は不幸だ。

不正をそのままにはしておかれない神
21:17 そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような【主】のことばがあった。
21:18 「さあ、サマリヤにいるイスラエルの王アハブに会いに下って行け。今、彼はナボテのぶどう畑を取り上げようと、そこに下って来ている。
21:19 彼にこう言え。『【主】はこう仰せられる。あなたはよくも人殺しをして、取り上げたものだ。』また、彼に言え。『【主】はこう仰せられる。犬どもがナボテの血をなめたその場所で、その犬どもがまた、あなたの血をなめる。』」
しかし、神は全てをご存知。悪をそのままにされることはない。エリヤをアハブ王の所に遣わされる。そして、アハブがしたことに報いをされることを伝えるようにされる。

アハブ、エリヤに会う
21:20 アハブがエリヤに、「あなたはまた、私を見つけたのか。わが敵よ」と言うと、エリヤは答えた。「あなたが裏切って【主】の目の前に悪を行ったので、私は見つけたのだ。
「あなたが裏切って【主】の目の前に悪を行った」とエリヤは言っているが、これは主が先にアラム軍の時にアハブが滅びないようにしてくださったのを感謝するどころか、反省することも、悔い改めることもなく、殺人の罪、盗みの罪を犯してしまったことを、神は裏切りだと見ておられる。
21:21 今、わたしはあなたにわざわいをもたらす。わたしはあなたの子孫を除き去り、アハブに属する小わっぱも奴隷も、自由の者も、イスラエルで断ち滅ぼし、
21:22 あなたの家をネバテの子ヤロブアムの家のようにし、アヒヤの子バシャの家のようにする。それは、あなたがわたしの怒りを引き起こしたその怒りのため、イスラエルに罪を犯させたためだ。
神が問題としておられたのは二つ。「怒りを引き起こしたその怒りのため」これは、ナボテの一件のことであろう。そして、「イスラエルに罪を犯させたため」は、アハブ王が偶像礼拝（バアル礼拝）を推進したことについてであろう。

イゼベルに対する神の裁きは・・・
21:23 また、イゼベルについても【主】はこう仰せられる。『犬がイズレエルの領地でイゼベルを食らう。』
主の裁きは、アハブ王に対してだけにとどまらない。それを実行に移した、黒幕のイゼベルに対する裁きも用意された。
21:24 アハブに属する者で、町で死ぬ者は犬どもがこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。」
21:25 アハブのように、裏切って【主】の目の前に悪を行った者はだれもいなかった。彼の妻イゼベルが彼をそそのかしたからである。
21:26 彼は偶像につき従い、【主】がイスラエル人の前から追い払われたエモリ人がしたとおりのことをして、忌みきらうべきことを大いに行った。
神は、具体的にアハブとイゼベルにどのようなことが起きるのか、説明され、その理由も説明された。アハブは、「裏切って【主】の目の前に悪を行った」、「偶像につき従い」、「忌みきらうべきことを大いに行った」。イゼベルは、「そそのかしたから」だと主は言われた。

神からのことばを聞いたアハブ
21:27 アハブは、これらのことばを聞くとすぐ、自分の外套を裂き、身に荒布をまとい、断食をし、荒布を着て伏し、また、打ちしおれて歩いた。
アハブは反省した。悔い改めていないのかもしれないが、へりくだりはした。イゼベルがどのような反応をしたのか書かれていない。おそらく、書かれていないということは、反省もしなかったのだろう。しかし、アハブは反省した。

アハブのへりくだりに対する神の答え
21:28 そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような【主】のことばがあった。
21:29「あなたはアハブがわたしの前にへりくだっているのを見たか。彼がわたしの前にへりくだっているので、彼の生きている間は、わざわいを下さない。しかし、彼の子の時代に、彼の家にわざわいを下す。」
神は、アハブの反省（へりくだり）に対し、猶予をお与えになる。神は、アハブのような悪者に対しても、へりくだるのであれば、猶予を与え、悔い改めのチャンスを下さる方であることが分かる。

イゼベル： パート2
Ⅱ列王記 9 章に至る背景

イゼベルの最後
Ⅱ列王 9 章